

千葉県小学生ジュニア適用規則(男女共通)

2008年版 千葉県体操協会
2019年改訂版

1 採点の基本方針

- (1) 運動の難しさを要求することなく、演技が美しくのびのびと正しく行われているか、その演技実施の習熟度を評価する。
- (2) 演技の中の良い部分に対しては、積極的に加点する。

2 演技の採点

(1) 演技の原則

- ・ 演技内容は選手の能力に相応していなければならない。
また、演技は理にかなったやり方で、美しくのびのびと実施されなければならない。

(2) 得点の構成および価値部分の要求

ア ゆか・円馬・鉄棒・段違い平行棒(単バー)・平均台の演技は、次の配点により構成される。

価値部分 3. 0 0 (1 価値部分0.50×6つの部分)

演技実施 6. 0 0

加 点 1. 0 0

合 計 1 0. 0 0

イ 価値部分の要求

* 価値部分で最高点を得るために、跳馬(とび箱)以外の種目において、次の要求を満たさなければならない。

- ・ 6つの価値部分
- ・ 価値部分の不足に対する減点は1部分につき0.50である。
- ・ A難度に満たない技も価値部分として認める。

ウ 演技の構成要素

① 価値部分と繰り返しの認定

- ・ ゆか・鉄棒・段違い平行棒(単バー)・平均台において同一技は2回まで価値部分として認める。
- ・ 同一技が3回以上実施された場合、3回目から価値部分としては認めない。
ただし、繰り返しに対する減点はしないが実施に対する減点はある。
- ・ 円馬においては、同一技の繰り返し制限を適用しない。
例えば、両足旋回を6回以上実施してもすべて価値部分として認める。
- ・ 難度表の同一番号の技であっても、姿勢などが異なるものは別の技とする。

② 実施される価値部分は、以下の要素を考慮する。ただし、要素不足に対する減点はしない。

男子

④ゆか

- ・演技時間60秒以内（時間の超過に対する減点はしない）
- ・倒立，バランス技，柔軟性を表現する技，回転系の技

⑤円馬（とび箱）

- ・閉脚の両足旋回を主体に，開脚旋回などの器具上で実施可能な技

⑥鉄棒

- ・懸垂振動技，鉄棒に近い技，終末技

女子

④段違い平行棒（単バー）

- ・懸垂振動技，支持回転技，終末技

⑤平均台…演技時間60秒以内（時間の超過に対する減点はしない）

- ・体操系の跳躍技，体操系のターン，倒立回転系の技，姿勢保持の技，波動，接転系の技，終末技

⑥ゆか…演技時間60秒以内（時間の超過に対する減点はしない），音楽の伴奏は可

- ・体操系の跳躍技，倒立回転系の技，宙返り系の技，倒立系の技，姿勢保持の技，接転系の技

エ 加点

優れた実施に対して1.00まで加点を与えることができる。

- ① 様々な要素の美しい姿勢や表現に対して……………各0.20まで
 - ② 技や組合せの正しい実施に対して……………各0.20まで
 - ③ のびのびとした勢いのある実施に対して……………各0.20まで
 - ④ 着地が止まることに対して（円馬は除く）……………0.10
- ゆかにおいては，空中局面を有する回転系の技に限り……………各0.10

(3) 演技実施（欠点と減点）

- 小欠点……………0.10
- 中欠点……………0.20
- 大欠点（落下・転倒）……………0.30

ア 鉄棒，段違い平行棒（単バー）における停止・中間振動は，それが美しい姿勢で正しい技捌きから行われた場合は，減点の対象としない。

イ 段違い平行棒は，単バーでの実施でも両バーの実施でも採点に差をつけない。

ウ 減点は一項目について最大0.30までとする。

(4) 跳馬（とび箱）の採点

ア 「日本体操協会採点規則」に記載されている跳び方の基礎点は9.50とする。

イ 試技は1回とする（1助走1演技）。ただし、1回のやり直しを行える。

やり直しに対しては1.00の減点をする。

ウ 加点は優れた実施に対して0.50までを次のように与える。

- ①美しい実施に対して……………0.20まで
- ②突き手の効いた大きな跳躍に対して……………0.20まで
- ③着地が止まったとき……………0.10

エ その他

①飛距離やとび箱の中心線からのずれを判定するための線は引かない。

ただし、飛距離やとび箱の中心線からのずれに対する減点はある。

②足からの着地が認められない場合、0点ではなく相応の減点で対処する。

③3年生以下は、とび箱のむきと高さまたは跳馬で実施するかについて、選手が選択し演技できる。
とび箱の実施か跳馬の実施かで採点に差をつけない。

④日本体操協会採点規則（難度表）に記載されていない技を実施した場合は、7.00からの採点とする。（例；台上前転，開脚とび，かかえ込みとびなど）

3 補足

(1) 選手・コーチの行動に関わる減点については、すべて-0.20とする。

(2) 補助および補助マットについて

ア 事故防止と選手の精神的援助のため、ゆかを除く種目において2名までの補助者が立つことが許される。また、すべての種目でソフトマットの使用も許される。

しかし、演技の原則「**演技内容は選手の能力に相応していなければならない**」は厳守しなければならない。

イ ソフトマットなどを重ねることによって高さを調整することを認め減点はしない。

(3) 禁止技（価値部分として認めない）

- ・ 中学生規則及び高校生規則での禁止技。

(4) 服装

体操競技用ユニフォームを着用し、背中に割り当てられたゼッケンを、指定された色と大きさでつけなければならない。また、所属を表わすマーク，ゼッケン，服装に対する減点は最新の日本体操協会採点規則に準じる。

4 器具寸度（高さは床面から）

（1）男子

- ▷ゆ か ; 18mのタンブリング板（ライン減点なし）
- ▷円 馬 ; 高さ60cm
- ▷跳 馬 ; 高さ110～120cm（3年生以下のとび箱；高さ5段以上縦横自由）
- ▷鉄 棒 ; 高さ2m65cmを原則とする

（2）女子

- ▷跳馬；高さ110～120cm（3年生以下のとび箱；高さ5段以上縦横自由）
- ▷段違い平行棒；高バー2m40cm低バー1m60cm
- ▷平均台；高さ1m20cm
- ▷ゆか；18mのタンブリング板（ライン減点なし）

※ただし、**器具は会場の都合に合わせる。**

〔2013. 9一部改訂〕

変更部分・価値部分が満たされている場合は、7. 00を最低点とする。→削除

- ・「3 補足（4）」服装を追加。

〔2016. 3一部改訂〕

変更部分・「2 演技の採点（4）」の「すべての跳び方」→「日本体操協会採点規則に記載されている跳び方」に変更。

- ・「2 演技の採点（4）エ」の④を追加。
- ・「3 補足（4）服装」の「ただし、ユニフォームの不揃いによる減点はしない。」を削除。

〔2019. 1一部改訂〕

変更部分・男女ともに「跳馬：高さ110cm」→「跳馬：高さ110cm or 120cm」に変更。

- ・男子鉄棒「高さ：260cm」→「高さ：265cm」に変更。